

インフォーマルセクター，都市化，および経済成長

古川 雄一 (横浜国立大学)

歴史を通して，一人当たり GDP の高水準は，必ず都市化を伴って実現される．所得水準が高い先進国は，6 割以上の高い都市化率を達成している．しかしながら，都市化は，必ずしも一人当たり GDP の高水準によって付随されているわけではない．多くの発展途上国は過剰な都市化に直面しており，このような現象は，しばしば，“成長なき都市化 (urbanization without growth)” と呼ばれる．

一方で，経済成長を十分に達成していない途上国が，急激な都市化を経験している．他方で，先進国は経済成長に伴われた都市化を経験している．本研究の目的は，これらの国々との違いを明らかにし，都市化と経済成長の関係を決定する要因を分析することにある．そのために，発展途上国の都市化の背後にある都市インフォーマルセクターの拡大に注目した．

都市失業に関する既存研究は，インフォーマルセクターを，ただ単に，フォーマルセクターで職を得られなかった失業者の集まりとみなしていた．しかし，現実には，都市インフォーマルセクター内部には，フォーマルセクターより高い賃金を得ている小規模経営の企業家が存在する．このインフォーマル企業家の存在は，下川 (1998) によって¹，明示的に地方 - 都市間人口移動モデルに導入された．これに従い，本稿では，インフォーマル企業家の行動をより詳細に捕捉するために，企業家がそれぞれ差別化されたサービスを供給するとした．また，最近の内生的成長モデルの貢献に従い，技術水準は人的資本に依存しており，人的資本蓄積は都市部フォーマルにおいてのみなされるものと仮定した．

このような設定の下，われわれの得た結論は次のようなものである．経済には，生産性の初期値に関してある範囲が存在して，そこに属する点からスタートすると，生産性が時間を通じて低下し続ける．言い換えると，初期の技術水準が低すぎる国は，時間を通じて景気が後退し続ける．このような罠に陥っている時，すべての主体の厚生が悪化を伴いつつ，インフォーマルセクターの拡大を通じて，最終的には，都市化が進行する．罠にはまっていない経済については，フォーマルセクターとインフォーマルセクターの間の代替の弾力性が十分低い時，発展の成熟段階においては動学システムは振動的な軌道を持つ可能性がある．その際，あるパラメーターの下では，恒久的な景気循環が発生する．

¹下川雅嗣 (1998), 「都市インフォーマルセクターでの事業機会と農村都市間労働移動 (フィリピン経済のケーススタディ)」, 『アジア経済』, 39 (6), 23-42.